

福岡市水道水源かん養事業基金 第31回運営委員会議事録

- 1 開催日時 令和6年7月3日(水) 13時30分～15時00分
- 2 開催場所 水道局本館4階局議室
- 3 委員数 8名
- 4 出席者 7名
- 5 議事
 - I 令和5年度事業実績について
 - II 令和6年度事業について

○基金概要について 事務局説明

○議事 I 令和5年度事業実績について 事務局説明

○議事 II 令和6年度事業について 事務局説明

【質問・意見】

委員： 資料には、将来的には広葉樹林への転換を目指すところがあるが、針葉樹と広葉樹にはすみ分けがあり、得意分野がある。ゾーニングなど、専門家の助言は受けているのか。

事務局： 主伐範囲は、針葉樹の搬出が可能な箇所を主伐して、広葉樹に植え替える計画だが、専門家の意見等は、まだ集約できていない。今年度ゾーニングの計画を行う予定であり、専門家に助言をいただき進めたいと考えている。

委員： 広葉樹林への転換は非常に興味深い。広葉樹林への転換や間伐などは、地域住民の方の理解を得やすいのではないと思う。一方で主伐の面積が大きいと心配なところがある。主伐面積はどの程度を予定しているのか。

事務局： 主伐の面積としては、福岡市森林整備計画によると最大10haの主伐が可能ではあるが、急傾斜地については最大5haとなっている。土砂崩れ等のリスクを鑑み、今年度は3haを予定しており、次年度以降は毎年5haを主伐する計画である。

委員： 10haは広範囲になるので、3～5haの範囲で計画通り慎重に進めていただきたい。

事務局： 専門家に意見を伺いながら実施したいと考えている。

委 員： 福岡市水源の森づくり共働事業について、CSR（Corporate Social Responsibility）やサステナビリティなど、企業の環境に対する関心が高まっているようだが、相談や申請状況について、現状を聞きたい。

事務局： 今年度も新規で1件、活動に関心のある企業と協議を行っている状況である。しかし企業活動が困難な急傾斜地が多く、企業が活動を希望する平地が少ないという課題がある。また、森林保全活動を希望している企業の中には、資金的な問題ではなく、人的問題で継続的に作業を行う事が困難という悩みもある。
主伐予定地や水道局が新たに購入した場所を提供するなど、企業が活動できる場所を創出するとともに、企業を呼べる方法がないかも検討していく。

委 員： 今は、社会貢献を行いたいと考えている企業も増えているので、マーケティングを行いながら、いろいろな事業においても企業との連携を考えていいと思う。

委 員： 市民活動助成金事業の申請が少なく現在も募集しているとのことだが、中止になった団体の理由は何か。各団体から募集締め切りが早く、各団体の事業計画が間に合わないという意見もある。

事務局： インフルエンザや日程調整ができなかったことによるが、コロナ禍で活動が3年ほど停止し、事業の継続が困難となったようだ。交流事業を受け入れる側の水源地域の方からも高齢化や担い手不足で事業継続が困難との声がある。水源地域などにヒアリングを行い、継続可能な事業について検討したい。
せつかくの制度なので、活用しやすい手法や幅広い世代へ知っていただける広報などにも注力し、是非活用していただければと考えている。

委 員： 別の団体であるが同様な事業も様々な理由で申請がなくなった事業がある。高齢化により水源地は大変だという状況はあるが、福岡市の水道は筑後川から引いているということを若い人にも知ってほしいので、お互いの交流は続けていきたいと思っている。今後につながるような手法について、一緒に考えていけたらと思う。

事務局： 審議いただいた内容を踏まえ、取り組んでいきたい。